



# MACAO Talkabout

マカオ通信

www.macaotourism.gov.mo

## マカオのホテル客室稼働率87.4%へ上昇 マカオ政府観光局、統計活用し戦略的に販売

成長を続けるマカオの観光は、2018年にどんな局面を迎えるのか。2017年の観光統計から読み取れる大きなポイントの一つが、ホテル客室稼働率の上昇だ。マカオへの訪問者数の70%近くを占める中国市場が回復し、2017年のホテル客室稼働率は前年より3.6ポイント高い87.4%まで上昇した。これまでは、ピーク時以外はホテル客室が取れやすい状況だったが、今後は客室が逼迫する可能性もあり、より効率良く客室を仕入販売する工夫が必要になりそうだ。マカオ政府観光局は昨年より、月別の観光統計に加えて、日別にどの国から何人マカオを訪れているのかがわかる詳細なデータの公表を開始しており、こうしたデータを活用しつつ、2018年を戦略的にマカオを売る1年と位置付けている。

### 宿泊旅行者率、52.9%に上昇 IR続々開業、都市型リゾートの魅力増す

ホテルの客室稼働率と宿泊客数の推移を見ると、マカオへの宿泊旅行者数は、中国経済の停滞を受けて、2013年から2015年までは踊り場のような状況にあり、ホテルの客室稼働率も2015年には80.9%まで一旦は減少していたが、2016年、2017年は中国経済の持ち直しで、宿泊旅行者数が右肩上がりに増加。これに伴い、ホテルの客室稼働率も2016年に83.8%、2017年は87.4%までさらに上昇した。

コタイ地区を中心に最新IRが続々と開業し、滞在型の都市型リゾートとしての魅力を増していることが、マカオへの宿泊旅行の増加を後押ししている。それに加えて、マカオにとって最大マーケットである中国からの旅行需要が一気に回復してきたことで、客室稼働率が急上昇した。

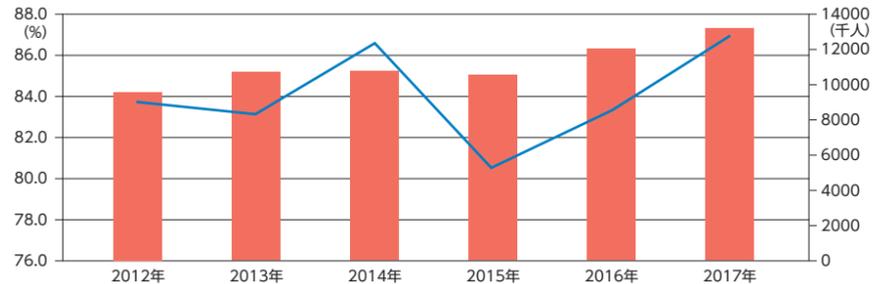
マカオへの宿泊旅行者数の増加、数字上にも顕著に表れている。2017年にマカオを訪

れた全訪問者数は、5.4%増の3261万506人。このうち、宿泊旅行者数は9.9%増の1725万4838人と1割増加し、日帰り旅行者数は0.7%増の1535万5668人と微増にとどまった。この結果、宿泊旅行者率は2016年の50.7%から、2017年には52.9%に上昇している。

### 中国回復、宿泊客100万人増、宿泊率39%に 韓国も宿泊客6割増、宿泊率44%に上昇

とくに中国は、マカオ訪問者数の伸びを上回って、宿泊旅行者数が伸びており、日帰り客から宿泊客へのシフト傾向が見受けられる。2017年にマカオを訪れた中国人は8.5%増の約2219万人、このうち宿泊したのは13.5%増の約864万人と大幅に伸び、宿泊旅行者率は38.9%に高まった。中国からの宿泊客数は実数で100万人増えており、これが稼働率を大きく押し上げた要因となっている。また、韓国もマカオ訪問者数は32.0%増の約87万人、このうち宿泊客数は64.7%増の約50万人、宿泊旅行者率は43.5%に上昇、宿

ホテルの客室稼働率と宿泊客数の推移(2012～2017年)



泊客数で20万人増加した。

### 訪マカオ日本人は9.4%増の32万8990人 宿泊旅行者率58.1%に2.4ポイント縮小

日本からのマカオ訪問者数も好調に伸び、2017年は9.4%増の32万8990人に達した。内訳をみると、宿泊旅行者は5.0%増の19万1067人、日帰り旅行者は16.2%増の13万7923人で、いずれも伸びたものの、安価傾向にある香港への航空券に牽引された低価格志向市場の伸長の影響を受けて、日帰り客の伸びが大きかった。これにより、宿泊旅行者率は2016年の60.5%から、2017年は58.1%へと2.4ポイント縮小した。

### 「港珠澳大橋」開通で人流変わる

2018年も大型IRの開業が続く、客室数は今後も増加していく見通しだが、供給以上に宿泊需要が増える可能性は高い。とくに、2018年は、マカオと香港国際空港、珠海市を陸路

により最短距離で結ぶ「港珠澳大橋」の開通を控え、マカオ、香港、中国本土を巡る人流や物流が大きく変わる可能性があるため、さらなる客室逼迫も予測される。

そのため2018年は、より戦略的な仕入れ販売が重要になる。マカオ政府観光局は、従来の月別・市場別の観光統計に加えて、日別にどの市場から何人の旅行者がマカオを訪れたのかを把握できる詳細データの公表を始めており、従来のシーズンリティだけでなく、より詳細にマーケットの動きが把握でき、戦略的なマーケティングにより、マカオをプロモーションしていく方針を強調している。

### マカオ政府観光局の詳細な観光統計ページ

マカオ政府観光局は2017年9月29日より、新たな観光統計プラットフォームを公開した。ここでは従来の月別データに加えて、日本を含むアジアの12市場の「日別」のマカオ到着数を公開。月別データについても、ファーストタイマーとリピーターの内訳を公表するなど、より詳細なデータの公表を開始している。  
<http://www.dsec.gov.mo/TourismDBWeb>

## マカオ「シティ・オブ・ガストロノミー」認定 「2018年マカオ美食年」キックオフセレモニー

ユネスコによる創造都市ネットワーク食文化(ガストロノミー)部門の認定を受けて、マカオ政府は2018年を「マカオ美食年」(Macao Year of Gastronomy)に決定し、去る1月17日にキックオフセレモニーを開催した。

セレモニーには、マカオ政府からアレクシス・タム社会文化庁長官、マリア・ヘレナ・デ・セナ・フェルナンデス観光局長、ユネスコからゲタチャー・エンギダ事務局長らが参加した。

タム長官は、この認定を契機に、マカオ観光のプロモーションの一つとして、食文化



(ガストロノミー)に焦点を当てる方針を示した。また、マカオの食文化を世界に広めるために、マカオ料理の伝承と人材育成を体系的

に進めていく方針を表明した。

マカオ政府は、マカオのガストロノミーを持続的に発展させるため、2018年から22年までの4カ年の行動計画を策定し、6項目の取り組みを実施する。

第1に、食文化都市として社会文化庁長官を委員長とする管理・監督機関を設置し、組織体制を整える。

第2に、マカオ市民に対して、ユネスコ創造都市の一員であるとの意識向上を図るとともに、マカオの食文化をアピールするキャンペーンを展開する。

第3に、マカオ料理技術伝承のため、観光専門学校の旅游学院(IFT)に料理センター設立を計画する。マカオ料理を体系化し、400年を超える食文化の伝統を引き継ぐデータベースを構築する。

## マカオ政府観光局、2018年の基本方針 ガストロノミー、港珠澳大橋で観光促進

マカオ政府観光局は、2018年のマーケティング基本方針を発表した。ユネスコから「シティ・オブ・ガストロノミー」の認定を受け、2018年を「マカオ美食年」に選定し、「ガストロノミー」でマカオの食文化をアピールするとともに、「港珠澳大橋」の供用開始に向けて、橋の認知度向上を2018年の活動の2本柱に据えて、マカオ観光の魅力を発信する。

とりわけ、港珠澳大橋は2018年下半期前半に供用開始が予想され、その認知を強力に推進する活動を展開する。具体的には、全国各地の25余りの都市で、旅行会社を対象にセミナーを開催するとともに、橋の視察を中心とする大規模なFAMツアーを実施する予定だ。また、各メディアで認知促進活動を積極的に展開する。

### イベントツーリズムを推進 4つのイベントに焦点、花火や映画祭

また、イベントツーリズムを引き続き推進し、2018年はとくに4つのイベントを重点的にプロモーションしていく。

1つ目は、2月の旧正月パレード。日本か

らも沖縄エイサーと琉舞の踊り手ら25名がパレードに参加し、マカオの旧正月を祝った。

2つ目は、「第29回マカオ国際花火コンテスト」。9月1日、8日、15日、24日、10月1日に開催され、毎年(今年は未定)日本をはじめ世界各国の代表が参加する。音楽と花火とのコラボレーションが美しく、人気の高い花火コンテストを鑑賞しようと日本からもツアーが組まれている。

3つ目は、「第3回マカオ国際映画祭」。3年目を迎える2018年は、12月8日～14日に開催される。日本映画もいくつか紹介されており、今年も各国からどんな作品が出品されるのかが注目だ。

4つ目は、「マカオ・ライト・フェスティバル」。12月2日～31日まで開かれる。クリスマスシーズンを迎え美しくライトアップされたマカオの街並みが堪能できる。このほかにも、10月の「MGMマカオオクトーバーフェスト2018」、11月の「第18回マカオ・フード・フェスティバル」などの機会を活用し、マカオのガストロノミーシティとしての魅力を発信していく。

## 旧正月を祝う祝賀会、盛大に開催される パレードに日本から沖縄エイサー琉舞チーム参加

マカオ政府観光局は、旧正月(春節)の初日の2月16日、聖ポール天主堂跡やセナド広場などで新年を祝う祝賀会を盛大に開催した。昨年マカオを訪れた旅行者数は3200万人超に達したが、新しい年がマカオの観光にとってさらなる飛躍の年となるよう願いが込められた。

238メートルものゴールドドラゴンとライオンダンスが主な観光地を練り歩き、祝祭日を華やかに祝う人々に歓迎された。また、今年には戌年で、中国の十二支で犬は繁栄と敬虔の象徴とされることから、犬の祝典パレードが行われた。街はランタンや花々で溢れた。

2月18日の旧正月パレードには、日本からも沖縄エイサーや琉舞の踊り手らも参加し、マカオの旧正月を大いに盛り上げた。パレードには、計36チームから約1000名のパフォーマーが参加し、海外からはドイツ、スペイン、フラ



パレードに参加した沖縄のチーム

ンス、日本、ポルトガル、ロシアの6チームが参加した。

日本からは、沖縄の「創作芸団 REQUIOS」(獅子舞・エイサー)と、「舞踊団 飛琉(HARU)」(琉舞)が合同で、「REQUIOS/HARU」として参加した。パレードに参加した琉舞メンバーは手を振ったり、エイサーメンバーは躍動感のある動きで太鼓を叩いて沿道の声援に応えた。また、パレード前日の17日には、世界遺産の「媽閣廟」で、マカオのライオンダンスに続き獅子舞を披露した。

観衆からは「日本らしい」、「キレイのある動き」、「衣装が綺麗」などの声が寄せられ、日本とマカオの文化交流に一役買った。

# フォーブス2018年格付、マカオが「3冠」達成 ホテルとレストラン12軒、スパ8軒と世界最多

フォーブス・トラベルガイドが発表した2018年の格付によると、マカオは5つ星がホテル部門で12軒、レストラン部門で12軒、スパ部門で8軒といずれも最多都市となり、全3部門の格付で「3冠」を達成した。

マカオの5つ星ホテルは前年はパリと同数の10軒だったが、今年は12軒に増え、単独で世界最多都市の座に躍り出た。2位はニューヨークの11軒で、パリ10軒、ロンドン9軒、香港8軒と続いた。ホテル全体では5つ星199軒、4つ星513軒、推薦309軒で、2018年は新たに27ホテルが5つ星、70ホテルが4つ星を獲得し、76ホテルが推薦ホテルに加わった。

レストラン部門では、5つ星はマカオの12軒に次ぎ、香港が9軒。レストラン全体では、5カ所が5つ星、24カ所が4つ星を新たに獲得、10カ所が推薦に加わった。

スパ部門では、マカオの8軒に次いで、香港、ラスベガスが5軒、上海が4軒となった。スパは5カ所が5つ星、29カ所が4つ星を獲得した。全体の受賞施設はレストランが5つ星64軒、4つ星171軒、推薦83軒、スパが5つ星60軒、4つ星210軒。

フォーブス・トラベルガイドは世界50カ国を対象に格付けを実施。2019年には60周年を記念して、調査対象地域を60カ国に拡大する予定で、格付はさらに厳しさを増していく。マカオのホテル・レストラン・スパの格付ランクは以下の通り。

【ホテル部門】

- ★★★★★ Altira Macau
- ★★★★★ Banyan Tree Macau
- ★★★★★ Conrad Macao, Cotai Central
- ★★★★★ Encore Macau (Wynn Macau)
- ★★★★★ Four Seasons Hotel Macao, Cotai Strip

- ★★★★★ MGM Macau
- ★★★★★ Nuwa Macau
- ★★★★★ Mandarin Oriental
- ★★★★★ Star Tower at Studio City Macau
- ★★★★★ The Ritz-Carlton, Macau
- ★★★★★ Wynn Macau
- ★★★★★ Wynn Palace
- ★★★★★ The St. Regis Macao, Cotai Central
- ★★★★★ Galaxy Hotel
- ★★★★★ Grand Hyatt Macau
- ★★★★★ Hotel Okura Macau
- ★★★★★ JW Marriott Hotel Macau
- ★★★★★ The Venetian Macao Resort Hotel
- \*推薦 Holiday Inn Macao Cotai Central
- \*推薦 The Parisian Macao

【レストラン部門】

- ★★★★★ Aurora
- ★★★★★ Belon
- ★★★★★ Golden Flower at Wynn Macau
- ★★★★★ IL Teatro at Wynn Macau
- ★★★★★ Jade Dragon
- ★★★★★ Mizumi at Wynn Macau
- ★★★★★ Shinji by Kanesaka
- ★★★★★ Sushi Mizumi
- ★★★★★ The Tasting Room
- ★★★★★ Tenmasa

- ★★★★★ Vida Rica Restaurant
- ★★★★★ Wing Lei at Wynn Macau
- ★★★★★ Andrea's at Wynn Palace Macau
- ★★★★★ Lai Heen
- ★★★★★ Mizumi at Wynn Palace Macau
- ★★★★★ Pearl Dragon
- ★★★★★ Robuchon au Dome
- ★★★★★ SW Steakhouse at Wynn Palace Macau
- ★★★★★ Terrazza
- ★★★★★ Wing Lei Palace
- ★★★★★ Ying
- ★★★★★ Zi Yat Heen
- \*推薦 Yamazato Macau

【スパ部門】

- ★★★★★ Altira Spa
- ★★★★★ Banyan Tree Spa Macau
- ★★★★★ ESPA at The Ritz-Carlton, Macau
- ★★★★★ Nuwa Spa Macau
- ★★★★★ The Spa at Encore Macau
- ★★★★★ The Spa at Mandarin Oriental, Macau
- ★★★★★ The Spa at Wynn Macau
- ★★★★★ Spa at Wynn Palace Macau
- ★★★★★ Bodhi Spa
- ★★★★★ Iridium Spa at The St. Regis Macao, Cotai Central
- ★★★★★ The Spa at Four Seasons Hotel Macao, Cotai Strip
- ★★★★★ Zensa Spa

## マカオで2軒目の「MGM」コタイにオープン 最高級スカイロフトルームなど6タイプ1400室



マカオで2軒目のMGMブランドホテル「MGMコタイ」が2月13日午後7時半にオープンした。5つ星ホテルで総客室数は1400室、総工費34億米ドル(約3704億円)を掛けて完成した。

客室は、リゾート・ルーム、リゾート・プレミアビュー、リゾート・デラックスルーム、リゾート・スイートに加えて、米国以外のMGMでは初の最高級スイートルームの「スカイロフト・ルーム」と「スカイロフト・デュープレックス」の全6タイプがある。

エントランスにはMGMのシンボル、ライオン像があり、MGM系列ホテル初の24金メッキ仕上げ。ホテルの中国語名「美獅美高梅」も「美しいライオンのいるMGM」を表している。

ショッピングエリアにはライフスタイル、

ビューティー、アートをテーマに35店が出店。レストラン・バーは、「世界のベスト・レストラン」やミシュランの星付きレストラン出身者らをメインシェフに迎えた日本食レストランの「aji」を筆頭に、3軒のシグニチャー・レストランと1軒の創作スイーツショップに加え、各式中国料理店4軒が揃う。創作スイーツのJanice Wong MGMには世界最大、高さ7.3mのチョコレート・ファウンテンが登場した。

アートコレクションも充実しており、清朝・紫禁城の絨毯を含む300点以上の芸術作品を所蔵している。最高級スイートルームの「スカイロフト」室内にも、アンディ・ウォーホルなどの著名近代アーティストらによる作品が飾られている。

スパ「TRIA」は、モロッコのハمامや日本の温泉、タイのスパイスマーケットにいるような気分を味わえる。

現在、MGMシアターの開館を準備中で、同館はテニスコート3面分の大きさに匹敵する世界最大の4K・LEDスクリーンが特徴。開館後はワールドクラスのコンサートやイベントを誘致する予定という。



## ギャラクシーグループ、IRオブザイヤー受賞

ギャラクシー・エンターテインメント・グループは、インターナショナル・ゲーミング・アワード(IGA)で、ベスト・インテグレートッド・リゾート(IR)・オブ・ザ・イヤーを受賞した。ギャラクシーがこの賞を受賞したのは3度目であり、IGAでの受賞は7年連続となる。

IGAはゲーミング業界のアカデミー賞と言

われ、ギャラクシー・エンターテインメント・グループの旗艦リゾート、ギャラクシー・マカオが2011年に開業して以来、様々なIGA賞を受賞しており、これまでの業績と今後の発展性が認められた。

ギャラクシー・マカオはコタイ地区で第3、第4フェーズの開発が行われ、約100万平方mが追加拡張される。

## 日本のIRに熱視線

### メルコが日本法人、MGMは万博誘致支援

日本で統合型リゾート(IR)の導入に向けた法整備が進められているが、マカオで最先端のIR施設を展開するエンターテインメント企業も、日本に熱視線を送っている。日本でもマカオのようなIRが整備され、MICEや世界的エンターテインメントが誘致される日が来るのが注目される。

シティ・オブ・ドリームスを展開するメルコリゾート&エンターテインメントは、日本法人「メルコリゾート&エンターテインメントジャパン」を昨年設立し、東京と大阪に事務

所を立ち上げた。同社はフィリピンなどでもIRを展開しており、政府とのパートナーシップを構築して事業を進めてきた。日本でも、政府や自治体などと連携して事業を推進していく。

一方、MGMリゾート・インターナショナルは、日本でのIR参入をめざして2014年に一足早く日本MGMリゾートを設立し、東京と大阪の拠点で活動しており、昨秋には「2025日本万国博覧会誘致委員会」のオフィシャル・パートナーとなった。MGMリゾートは、大阪、夢洲への大阪万博誘致活動をサポートし、地域社会や観光産業に資するIRの建設をめざしている。

さらに、ギャラクシー・エンターテインメント・グループなども日本でのIRライセンス取得に意欲を示している。



## 2017年の訪マカオ日本人渡航者数、9.4%増の32万8990人に

2017年(1~12月)にマカオを訪れた日本人旅行者数は前年比9.4%増の32万8990人で、日本人全体の海外旅行者数の4.9%増を大きく凌駕する2倍近い伸び率を記録した。マカオではコタイ地区に続々と最新IRが誕生、エンターテインメントの拡充もあり、女子旅やファミリーも含めて旅行需要が拡大した。

また、2017年8月には大型台風がマカオを直撃し、観光への影響も一部出たが、9月、10月は2ケタ増を記録。11月以降は、日本人の海外旅行市場自体が伸び悩んだこともあって伸び率は鈍化した。年日本人のマカオ渡航者数

月	2017年	2016年	前年比	宿泊旅行客率(%)
1月	25,777	25,817	-0.2%	58.2
2月	27,058	20,897	29.5%	57.1
3月	33,158	27,814	19.2%	55.1
4月	20,240	19,236	5.2%	61.3
5月	30,000	24,965	20.2%	60.2
6月	22,662	19,973	13.5%	63.9
7月	21,332	20,703	3.0%	59.4
8月	29,857	27,606	8.2%	56.1
9月	30,763	27,771	10.8%	54.9
10月	25,176	22,215	13.3%	58.7
11月	34,515	34,142	1.1%	58.3
12月	28,452	29,474	-3.5%	56.8
合計	328,990	300,613	9.4%	58.1

間では9.4%増のプラス成長を確保した。

アクセス別の内訳は、海路は24万7268人(前年比13.1%増)、陸路は3万2822人(3.4%減)、空路は4万8900人(1.7%増)だった。

海路客のうち、マカオ外港フェリーターミナル利用は18万4483人(12.0%増)、コタイ地区に建設されたタイパ・フェリーターミナル利用は6万2785人(16.8%増)だった。

2018年も、マカオへの日本人旅行者数は好調に伸びることが見込まれる。最大のトピックは港珠澳大橋の供用開始で、日本からマカオへのアクセスの選択肢が増加。これまでのマカオ航空の直行便、香港経由のフェリーに加えて、香港から大橋経由でマカオへという新たな陸路ができる。

マカオ、香港、珠海を結ぶ大橋が人流と物流にどんな変化をもたらすか、観光分野で化学反応を起こすのか。2018年のマカオに注目だ。

### マカオ訪問者数 過去最高の3261万人に 中国本土8.5%増、韓国32%増

2017年にマカオを訪れた訪問者数全体では、前年比5.4%増の3261万506人と、過去最高を更新した。

### マカオの国際観光客数(2017年)

市場別	2017年	前年比(%)
中国本土	22,196,203	8.5
香港	6,165,129	-4.0
台湾	1,060,107	-1.3
韓国	874,253	32.0
日本	328,990	9.4
フィリピン	307,139	7.0
マレーシア	218,301	-2.0
タイ	198,222	-16.1
インドネシア	197,139	8.0
米国	186,378	-2.4
その他	878,645	-4.5
合計	32,610,506	5.4

2014年以降、4年連続で3000万人台の大台を突破。2016年は15年比0.8%増と微増だったが、2017年は5.4%増と伸び率が拡大し、2014年実績を超えて過去最高となった。

中華圏では、中国本土が8.5%増の約2219万人と再び成長軌道に乗り、全体の7割弱を占めた。次いで香港が約616万人、台湾が約106万人となり、これら3市場で全体の9割を占めた。

国際訪問者数は6.2%増の約310万人で、全入国者数の9.8%を占めた。2017年は韓国が32.0%増と大きく伸び、台湾に代わり3番目の大市場を伺う勢いだ。日本も9.4%増の32万8990人と好調だった。

## 「フォト・マカオ」3月に開催

写真とオーディオビジュアルアートに特化した最新の国際アートフェア「フォト・マカオ」(PHOTO MACAU)が、3月24日~26日までザ・ヴェネチアン・マカオのエキシビジョン・ホールで開催される。

急速に拡大するアジアのアートとカルチャーシーンを中心に、世界の最新アートコレクションを展示し、世界の写真家やキュレーター、コレクター、ディーラー、美術愛好家などが集う一大アート発信地としてのマカオを確立する。

3月24日はプレスと招待者向け、25日~28日は一般公開される。

### MACAO Photo News

#### 開通間近の「港珠澳大橋」、ライトアップ

開通が待たれる「港珠澳大橋」。大橋が開通すれば、香港国際空港とマカオが約30kmで結ばれ、約30~40分でマカオに到着できるようになる。大橋の途中では、世界一長い海底トンネルと、世界一長い海上橋を通過。マカオ半島側に建設中のイミグレーション施設で入国手続きを済ませることになる。

この「港珠澳大橋」、開通前ではあるが、夜にはライトアップされ、美しい夜景が人々の目を楽しませている。中国からの旅行者には、このライトアップされた大橋を見に行くナイトツアーも組まれるほど、ちょっとした観光スポットに。いよいよカウントダウンがはじまる「港珠澳大橋」の開通が待ち遠しい。既に工事は完了しており、夏には供用開始の見通しだ。



## 旅行会社インタビュー

ターゲット女性の年齢層拡大を狙った  
母娘商品を造成

昨年「母と娘のおとなマカオ4日間」を展開しているエイチ・アイ・エス。明確なターゲットを絞り、的確な商品を造成している同社が、マカオでなぜ母娘旅を取り上げたのか。Ciao企画チームのマカオ担当、内田早紀さんに、実際に視察したマカオの印象を含めて話を聞いた。

—昨年からの現在の部署に異動してマカオを視察されたとか。どんなことが印象的でしたか。

内田 昨年の夏からマカオ担当になりました。9月と10月にマカオを訪れましたが、9月の視察が初マカオでした。マカオは以前から女性向けにプロモーションをしているのは知っていましたが、PRされている通りどう見ても女性向けの街という印象でした。さらびやかなコタイ地区のIRも、マカオ半島やコロ



アン地区の古き良き街並みもどちらもです。また、食の魅力もとても奥深いですね。シーフードが好きなので、ポルトガル料理のレストランで食べたムール貝のガーリックソテーが忘れられません。もちろんエッグタルトも大好きになりました。

—昨年からの展開している「母と娘のおとなマカオ」はどのような経緯で生まれたのですか？

内田 当社でも数年前からマカオは女性に向けてプロモーションをしています。若い女性を中心でしたが、もう少し年齢を高い層まで広げていいのではないかとということで、出てきたのが母と娘の組み合わせでした。イメージは新卒の20代女性と40~50代の母親のアクティブ母娘ですね。実は就職した年の夏に母と海外旅行をしたという私自身の実体験も反映されています。社会人になった記念

やこれまでの感謝を表すという意味をプロモーション動画にも込めました。

—タイトルに「おとな」と入っていますが、ツアー内容のどの辺りに反映されていますか？

内田 宿泊ホテルや訪れる場所を厳選しました。ホテルはザ・ヴェネチアン・マカオとザ・パリジャン・マカオで、どちらもインパクトのあるテーマ性のみならず、ラグジュアリーな非日常を体験できる施設となっています。2日目にご案内するポルトガル料理のレストラン「アントニオ」もミシュランが推薦する正統派の店で、本格的な味とポルトガルの雰囲気を感じていただくことができます。



—2日目はほかにもいろいろなポイントが含まれていますね

内田 聖ポール天主堂跡やセナド広場といった王道の観光地はもちろんですが、ラザロ地区を組み込んでいます。フォトジェニックな場所なので、写真を撮りながら散策を楽しんでいただくのに最適です。夜にはマカオの夜景を堪能できるオープントップバスでのナイトツアーも組み入



株式会社エイチ・アイ・エス  
関東営業本部  
アジア旅行事業グループ  
Ciao企画チーム  
内田早紀さん

れましたが、スタートは11:30頃からと遅めで、夕方には一度解散しますので、ゆるやかなスケジュールで、かつポイントを押さえた内容になっていると思います。

—自由行動となる3日目、お客様はどのように過ごされていますか。

内田 宿泊ホテルを見て回るだけでも数時間は必要なのでコタイ地区を満喫される方、オープンツアーに参加される方などさまざまです。観光は前日に済ませているので、「ザ・ハウス・オブ・ダンシング・ウォーター」のショーをご覧になる方が多いですね。

—2018年はほかにもどのようなターゲットやプロモーションを考えているのでしょうか。

内田 今期は新しくファミリーをターゲットにした商品を考えています。夏商品になる予定です。引き続き女性もターゲットにしていますので、SNSを使ったプロモーションも検討中です。マカオの食の魅力とSNSを絡めたキャンペーンも考えていますので、春から夏にかけての展開をお待ちください。

—新しい試み、楽しみにしています。今日はどうもありがとうございました。



思わず「来て良かったね」と言いあえる  
母と娘のおとなマカオ4日間

## 〈スケジュール〉

- 1日目 午後、成田空港から直行便でマカオへ
- 2日目 ☆「おとな母娘ツアー」へご案内  
11:30 ホテルお迎え  
12:00 「アントニオ」にて昼食  
13:30 ラザロ地区散策  
14:00 聖ポール天主堂跡やセナド広場など  
15:00 民政総署にて解散  
☆「オープントップバスdeキラキラ☆ナイトツアー」へご案内  
18:45 マカオ外港フェリーターミナル集合
- 3日目 終日自由行動
- 4日目 午前、マカオ国際空港から直行便で帰国

## 研修旅行実施校レポート

京都府立北稜高等学校  
マカオの歴史や文化、人に触れる  
充実の2日間

京都府立北稜高等学校は、男女共学の公立高校。普通科の中に文理、英語、総合と特色のある3つのコースを設け、国際交流と環境教育に力を入れている。研修旅行は毎年、姉妹校のあるマレーシアで実施してきたが、2016年に現地でジカ熱が流行したため、2017年と2018年は行き先を香港・マカオに変更した。4泊5日のうち2日間をマカオで過ごした2017年のスケジュールを中心に、具体的な内容を聞いた。

## 現地の大学生と班別行動

同校では毎年、現地でB&S(ブラザー&シスター)プログラムを実施している。これは、現地の大学生に案内してもらってグループ別のフィールドワークのこと。マカオでも5~8名の各グループが大学生と英語でコミュニケーションをとりながら、世界遺産を含む観光ポイントを自由に巡った。「マカオには日本語を勉強中の学生さんも多く、お互いに興味を持ってコミュニケーションをとることができたようです」と話すのは同校の教育推進部国際部長の山本千里先生だ。わずか数時間でも別れ際は離れたい様子も見られたという。



B&Sプログラムのひとコマ

同日の午後には学校交流も盛り込まれ、「浸信中学」(A団)と「蔡高中学」(B団)を訪問。



学校交流も貴重な体験に

マカオでは、高級中学が日本の高校に当たるため、どちらも同年代の生徒

達となる。代表生徒による京都についてのプレゼンテーションやパフォーマンスの披露のほか、グループごとにキャンパスツアーで校内を見学。その後スポーツをしたり、話し込んだりと思いの時間を過ごすことで打ち解け、意義深い交流の時を過ごした。

## アズレージョ製作体験が人気

3日目はクラス別の体験コースを実施した。「アズレージョ製作体験」、「IR(統合型リゾート)見学」、「コロアン観光」、「マカオ料理体験」の4つから、午前中に1つ、午後1つを体験するもの。最も人気があり、生徒たちの印象に残ったのは、アズレージョ製作体験だったという。タ



アズレージョ製作に取り組む生徒たち

アズレージョとはポルトガルの装飾タイルのこと。マカオの街なかでは、セナド広場向いの民政総署やカテドラルなどで見ることができるので、生徒たちもB&Sプログラムで直接目にする機会もあった。食文化や古い街並みだけでなく、タイル一つにもマカオの辿った歴史が秘められているのだ。



聖ポール天主堂跡前で記念撮影

## 現代マカオの象徴IRに刺激

IR見学もインパクトのあるプログラムとなった。マカオのIRは近年、大規模化と高級志向が進み、次々に新しい施設が誕生している。「京都の旅館文化と比較してもあまりに別世界で唖然とする生徒もいました」という通り、コタイ地区には3000室のホテルやテーマパークそのものといったホテルまで、巨大な施設が林立している。

IR見学を選択できなかったクラスも、初日にウィン・パレスのパフォーマンスレイクで噴水ショーを見学したり、2日目の夕食後にザ・ヴェネチアン・マカオをバックに記念撮影をしており、コタイ地区のさらびやかな世界を目の当たりにすることができた。山本先生によると、もともと生徒にはマカオ=カジノというイメージは希薄で、出発前に情報として知ったに過ぎないという。むしろ現在のIRと情緒あるタイパやコロアンとの対比などが新鮮に映ったようだ。

なお、同校ではマカオ政府観光局による出張セミナーを依頼。事前に十分な情報を得ることで、2日以上マカオ滞在に多彩な内容を盛り込むことができたとしている。

## 〈DATA〉

期間：2017年2月7~11日(A団)  
2月8~12日(B団)  
(4泊5日※機内1泊)  
人数：2年生161名(A班) / 117名(B班)  
行き先：香港、マカオ  
マカオ宿泊先：グランビュー(A団)  
タイパスクエア(B団)

## 〈スケジュール〉

- 1日目 関西国際空港出発  
キャセイ航空で香港へ  
夕食後、高速船にてマカオへ  
到着後、ウィン・パレスの噴水ショーを観賞
- 2日目 7:00ホテルにて朝食  
9:30からB&Sプログラム開始  
昼食をはさみ、14:00に全員集合して終了  
15:30から現地学校と学校交流  
19:00からマカオ・ポルトガル料理の夕食  
IRを背景に記念撮影
- 3日目 7:00ホテルにて朝食  
9:30からクラス別体験コース  
飲茶の昼食  
13:30からクラス別体験コース  
17:00、高速船にて香港へ
- 4日目 終日香港で各種プログラム  
21:00、空港へ
- 5日目 キャセイ航空で日本へ  
大阪到着

MACAO Talkabout

マカオ通信

## 2018年は“対立軸”前面にプロモーション 欧州と東洋、世界遺産とIRなど対立要素に焦点

マカオ政府観光局は、2018年のマーケティング方針として、中世と現代、ヨーロッパと東洋、ポルトガルと中国、世界遺産とIRなど、“対立軸”を前面に出したプロモーションを展開していく。

マカオは大航海時代以来、東洋と西洋を結ぶ貿易港として栄え、2005年に旧市街地区がユネスコ世界文化遺産に登録された。今回、2017年11月、新たにユネスコ創造都市ネットワークの食文化創造都市に登録され、歴史の街としてのマカオと、世界最先端のIRとの対比に加えて、世界的に認められたガストロノミーシティを標榜できる奥深いデスティネーションに成長した。



このため2018年は、東洋と西洋の歴史的な融合と、未来都市を感じさせるIR地区が提供する旅の魅力に対立軸として前面に出し、深度のあるデスティネーションのイメージを形成しつつ、世界遺産の街、エンターテインメント・シティー、シティーリゾートとしての浸透を図る。

マカオには、中世と現代、ヨーロッパと東洋、ポルトガルと中国、世界遺産とIRなど、一

見対立する文化、宗教、風習、景観などが両立して同居しており、様々な文化や宗教などが融合して存在するユニークな世界観を紹介していく。

それらの要素は、マカオ半島に「世界遺産歴史市街地区」、タイパに「居住地区」、コタイに「IR開発地区」、コロアンに「自然保護地区」が集積し、うまく棲み分けられていることから、各地区の特色を最大限活かしていく。

### 女子旅からファミリーへ全世代にアプローチ 連泊やモノステイ後押し、教育旅行も強化

2018年は、全世代の旅行者層をターゲットに、とくに女性層をマーケットリーダーとしてファミリー層へのアプローチを重点的に推し進める。また、世界遺産とIRをフックに修学旅行市場にも積極的に動きかける。

マカオの魅力をより感じてもらうために、2泊以上の連泊や、モノステイなどのマカオ滞在型商品の開発を後押しする。ウェブプロモーションも強化し、港珠澳大橋の開通を契機としたプロモーションも積極化する。

教育旅行では、歴史から最先端まで学びのテーマが多数あるほか、厳格な食の安全が確保され、多彩な学校交流プログラムがあるなど、マカオでしか体験できない教育旅行が実現できる強みをアピールしていく。近年は安心安全なデスティネーションとしてマカオを教育旅行先を選ぶ学校も増えている。

インセンティブツアーではチーム・ビルディングに適したプログラムを用意しているマカオの強みを活かし、企業力を高める旅行先としてマカオを推奨していく。



聖ポール天主堂跡の横には道教寺院

## 第6回マカオ国際旅行エキスポ2018 4月27～29日開催、セラー出展者募集中

マカオ政府観光局が主催する「第6回マカオ国際旅行エキスポ(Macao International Travel Industry EXPO)」が4月27日～29日までザ・ヴェネチアン・マカオで開催される。

「マカオ国際旅行エキスポ」は、インバウンド・アウトバウンドを推進するためのビジネス相乗効果を生み出す機会として高く期待される。また、マカオの観光資源開発やプロダクトの促進も目的としており、中国をはじめ海外からも多くのバイヤーが参加する。ビジネスマッチングやネットワーキング、新プロジェクトの発表に加えて、一般来場者向け

の旅行商品の紹介、直売できるB2Cプラットフォームとしても活用できる。

昨年は45カ国・地域から計473ブースが出展し、旅行会社、ホテル、エンターテインメント、自治体、交通機関をはじめ、飲食や特産品、工芸品販売企業なども出展した。

セラー出展申込締切は3月25日。出展料金は1ブース(9平米)あたり3000米ドル。出展料には、滞在中の宿泊や昼食、ビジネスセッション、プロモーションなどに関するサポートが含まれる。参加申込みは、所定のフォームをダウンロードし、必要事項を記入の上でメールする。

### 「第6回マカオ国際旅行エキスポ2018」

- ◇開催日 2018年4月27日(金)～29日(日)
- ◇会場 ザ・ヴェネチアン・マカオ コタイ・エキスポDホール
- ◇主催 マカオ政府観光局
- ◇各種ダウンロード
- ◇パンフレット <http://sensemacao.jp/pdf/MITE2018.pdf>
- ◇詳細・申込用紙 [http://sensemacao.jp/pdf/MITE2018\\_form.pdf](http://sensemacao.jp/pdf/MITE2018_form.pdf)
- ◇申込先メールアドレス [info@cmitc.com](mailto:info@cmitc.com)



昨年のマカオ国際旅行エキスポ2017の様子

## 羽田、関空の旅行フェアにマカオブース出展 旅行意欲高い消費者にマカオの魅力アピール

マカオ政府観光局は、3月30日～4月1日に羽田空港国際線ターミナルで初開催される「もっと！海外へ～羽田から世界へ～」と、5月19日～20日に関西国際空港で開催される「関空旅博」にマカオ・ブースを出展し、空港を訪れる旅行意欲の高い一般消費者にマカオの魅力をアピールする。

### 羽田国際ターミナルで「もっと！海外へ」 マカオブース出展、日旅と共同でセミナーも

羽田空港国際線ターミナルで3月30日(金)～4月1日(日)までの3日間にわたり開催される「もっと！海外へ2018～羽田から世界へ～」は、羽田空港からの海外旅行をもっと促進しようと初めて企画されたアウトバウンド向けの旅行フェア。1日1万人以上、3日間で計3万人以上の来場者が見込まれている。東京国際ターミナルが主催し、日本旅行業協会(JATA)が協力をする。

このイベントには世界23カ国・地域から、39の航空会社や政府機関などがブースを出展。マカオ政府観光局は、Aゾーン(TIAT SKY HALL)の12番ブースに出展する。

また、21の海外旅行セミナーが開かれるが、マカオ政府観光局は日本旅行と共同で、親子を含む一般消費者向けセミナーを開催する。マカオセミナーは、3月31日(土)の17時30分～18時15分に開かれる。定員は40名。

- 名称 「もっと！海外へ2018～羽田から世界へ」
- 日時 3月30日(金)～4月1日(日) 10時～18時
- 会場 羽田空港国際線ターミナル 3F～5F
- 特設ホームページ <https://haneda-to-world.com/>
- 《マカオブース》Aゾーン(TIAT SKY HALL)12番ブース
- 《マカオセミナー》3/31(土) 17:30～18:15

### 「関空旅博」、マカオブースを今年も出展 今年で14回目、前回は2日間で4.2万人来場

「関空旅博～世界に一番近い旅の博覧会～」は、関西国際空港を会場とした西日本最大級の旅行フェスティバル。関西エアポートが主催し、日本旅行業協会関西支部がセミナーを共催している。今回で14回目を迎え、前回の関空旅博には、2日間で4万2000人が来場した。

マカオ政府観光局は、「関空旅博」に毎年出展しており、今年もマカオ・ブースを出展する。マカオ・ブースでは、エンターテインメントやグルメ、ホテルなどの最新情報を提供する。また、海外旅行セミナーも開催する予定だ。

- 名称 「関空旅博2018」
- 日時 5月19日(土)～20日(日) 10時～17時
- 会場 関西国際空港南北広場、駅コンコース
- ホームページ <https://kanku-tabihaku.com>

### マカオ女子会、5月9日に開催決定！

旅行会社勤務の女性を対象にした「マカオ女子会」が、5月9日(水)19時30分から開催されることが決定した。場所はポルトガル料理店のマヌエル四ツ谷店。ガストロノミーを中心に、マカオの最新情報を伝える。問い合わせは、マカオ政府観光局([macaoevent@milepost.co.jp](mailto:macaoevent@milepost.co.jp))まで。

### 本で旅するマカオ 深夜特急1 -香港・マカオ- / 沢木耕太郎

著者・沢木耕太郎氏は、日本を代表するノンフィクションライター。「一瞬の夏」等の作品で、スポーツ・ノンフィクションのジャンルを切り開いた。スポーツを楽しむことよりも、その生き様を描く手法は、その後の日本のスポーツメディアに大きな影響を与えた。

その著者のスポーツと並ぶ代表的ジャンルが「旅」で、この著書は壮大な旅の長編ノンフィクション「深夜特急」シリーズの序章、プロローグである。当時の若者には「深夜特急」と「地球の歩き方」が旅のバイブルと言われ、バックパッカーの必需品ともされた。

マカオと言えばカジノのイメージは、著書や当時の映画・テレビ・小説にも描かれ、その偏ったイメージは、マカオの発展、時代の流れとともに払拭されようとしているが、中高年代にはまだまだ根強く残る。

著書の舞台の「カジノ・リスボア」は、当時のマカオを代表するホテルで、現在のホテル・リス

ボア。今はその隣に蓮の花を彩ったグランド・リスボアが立ち、来年はコタイ地区にブランド・リスボア・パレスが開業し、リスボアがマカオ半島地区から念願のコタイ地区へ進出する。著書の当時は隔世の感がある。

こうした著書に触発されて海外へ旅に出た人は多い。若者の海外旅行離れの話になると、その時の体験や留学経験を熱く語る人は少なくない。海外旅行に人生を重ねる時代ではない。今の若い人の方が、旅の楽しみ方を知っているようだ。

世界を駆け巡った著者も、巻末の対談で「世の中で一番好きなお酒の一つはハワイ」。マウイ島の高級リゾートではなく、ワイキキにアパート借りて、風に吹かれながら過ごしたいと言う。ハワイよりもマカオに行って、「深夜特急」のエピローグを書いてほしい。



### イベント&祝祭日 2018年3月～5月

\*印は祝祭日

**3月30日～31日\***  
**イースター・ホリデー (Easter Holidays)**  
キリスト教のコミュニティで特に重要な祭事。ベーカリーや菓子店ではチョコやポルトガルの「フォラール」(卵のケーキ)など、祭りに縁があるスイーツが販売される。

**4月5日\***  
**清明節 (Ching Ming Festival)**  
冬至後106日目の晩に行われる家族の祭り。この日は親戚一同が祖先の墓参りをして、花と3杯の酒を墓前に手向け、線香や紙で作った車、紙幣などを燃やす。

**5月1日\***  
**メーデー (Labour Day)**  
**5月8日**  
**天后節 (A-Ma Festival)**  
「マカオ」の名前の由来とも言われる「媽閣廟」に祀られる阿媽の神に祈りを捧げる祭事。

**5月13日**  
**ファティマ聖母の行列 (Procession of Our Lady of Fatima)**  
毎年この日に信者が聖ドミニコ教会からペンニャ教会へ巡行する。1917年ポルトガルのファティマに聖母が出現した奇跡を祝う。

**5月18日**  
**国際博物館日 (International Museum Day)**  
国際博物館協会が定められた記念日。

**5月22日\***  
**灌仏祭 (Feast of Buddha)**  
マカオ中の仏教寺院で仏像が清められる。  
**醉龍祭 (Feast of the Drunken Dragon)**  
マカオ独特の仏教行事。灌仏祭にあわせて酒をあおり、龍と踊る毎年恒例の祭り。  
**潭公祭 (Tam Kong Festival)**  
潭公の生誕を祝う華やかなお祭り。



醉龍祭

### 気候と服装

3～5月の天気概況 [www.smg.gov.mo](http://www.smg.gov.mo)

日本では3月といってもまだまだ肌寒い日が残るが、マカオでは最低気温が15℃を超え、ぽかぽか陽気で過ごしやすい季節を迎える。そして4月、5月となると、早くも夏の気候に。帽子やサンングラスなどの日差し対策はもちろん、クーラー対策に薄手の上着があるとよい。また、雨の日も多くなるため、折りたたみ傘などの雨具があると安心。

夕焼けウォッチングの日没時刻もお忘れなく

	月平均	最高気温	最低気温	湿度	降水量	降水日数	日の出	日没
3月	マカオ	21.0℃	16.2℃	84.5%	89.3mm	11.7日	6:35	18:34
	東京	13.6℃	4.4℃	56.0%	117.5mm	9.9日	5:52	17:48
4月	マカオ	24.7℃	20.2℃	86.1%	195.2mm	12.0日	6:06	18:45
	東京	19.0℃	9.4℃	62.0%	124.5mm	9.9日	5:09	18:13
5月	マカオ	28.4℃	23.6℃	84.4%	311.1mm	13.9日	5:46	18:58
	東京	22.9℃	14.0℃	69.0%	137.8mm	10.3日	4:36	18:38

### 為替レート

**1香港ドル ≒ 14.11円**  
(2018年2月23日現在)  
マカオの通貨はパタカ(MOP)だが、香港ドルもそのまま通用する。パタカは日本で両替できないため、使い残した紙幣は香港ドルに換金しておくとうい。レートMOP103.20=HKD100.00(換算レートは10%の加減が認められている)

### メディアチェック 録れたマカオ

- 【TV】関西テレビ(フジテレビ)「にじいろジーン」3月17日(土) 午前8:30～9:55
- 【新聞】日刊スポーツ「マンスリーマカオ」(月末掲載)
- 【新聞】サンケイスポーツ「歩いてみよう」(月末掲載)
- 【ラジオ】BSS山陰放送(鳥取県)「午後ほろほろ」毎月第2水曜日 13:15～16:50

### 読者の皆さまへ

マカオ旅行の体験記(800字程度)、ご意見、写真などをお寄せください。内容は問いません。採用分には記念品をお送りさせていただきます。応募は氏名、住所、電話番号、e-mailアドレスを明記してください。お寄せいただいた原稿、写真などは返却いたしませんのでご了承ください。

### 教育関係者の皆さまへ

マカオ政府観光局は教育旅行関係者(学校関係者、旅行会社担当者)からの情報提供をお待ちしています。マカオへの修学旅行、研修旅行、ゼミ・サークル旅行などをご計画または実施済みの方はお知らせください。マカオ通信でご紹介させていただきます。お気軽にご相談ください。(担当=志田)

### 旅行会社の皆さまへ

観光地図や世界遺産マップ、DVDなど各種販売支援ツールをご用意しております。ご活用ください。また、販促・商品化などのご相談もどうぞ。(担当=市村)

### メディアの皆さまへ

マカオ政府観光局はマカオ取材するメディアのお手伝いをしています。ご希望の方はご相談ください。(担当=齊藤、大野)



### マカオ政府観光局

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-16-9  
永田町ガラスゲート7階  
TEL 03-5275-2537 FAX 03-5275-2535  
e-mail: [macao@milepost.co.jp](mailto:macao@milepost.co.jp)  
[www.macaotourism.gov.mo](http://www.macaotourism.gov.mo) (日本語など)  
[www.facebook.com/macaotourism.jp](https://www.facebook.com/macaotourism.jp)  
[twitter.com/macaotourism\\_jp](https://twitter.com/macaotourism_jp)